



すまいる新聞

目次

卒業生に贈る言葉	1 P
保護者交流会	2 P
誕生者クイズ大会、開催！！	3 P
立志式の言葉	3 P
すまいる情報	4 P

卒業生に贈る言葉

うらかな3月、すまいるでは、新しいスタートに胸をふくらませる8名の卒業生(小、中、高を含む)がいます。

その中で高等部を卒業するのは、小林知世さん、吉村和弥さんです。ともに、南那須特別支援学校でたくさんのことを学び、また紙すき工芸班として作品作りに励んできた2人です。すまいるの思い出はと振り返れば、小学生の可愛い2人の姿が思い浮か



実習中(水やりの様子)

びますが、今、目の前にいる成長された2人は、眩しいくらいきらきらと輝いています。

高等部になると知世さんは急に視野が広がったようでした。「私も実習をやってみたい」と職員に相談するようになりました。夏休みに念願だった実習が実現し、送迎で使用している車の洗車をしました。見落としがちなのまでよく気づいて汚れを丁寧に落とす仕事ぶりが評価されました。そして創作ダンス。高校生グループで作るダンスは選曲から行う本格派です。話し合いでは自分の意見を積極的に発言し、また、友だちの話もよく聞いてお互いが納得する意見を考えたりと、話し合いの場でも成長した知世さんがいました。協力して創ったダンスは、クリスマス会、なかよしコンサートで、すまいるのみんなで披露でき、よい思い出です。学校で園芸班だった経験を生かし種まきや水やりの仕方アドバイザーはいつも知世さん。楽しいことが大好きで、いつもアイデアを提供してくれる心強い先輩でした。

一昨年前のなかよしコンサートでの吉村和弥さんのハンドベルの独奏は心に響く演奏でした。曲は「勇気100%」。記憶力抜群の和弥さんですが全曲を1人で演奏するのは、緊張したことでしょう。演奏が終わった時に自分で「パッチリ」と言って笑顔になったこと、猛練習を重ねてきた職員とハイタッチをして「やったね!」の気持ちを分かち合ったこと、会場からたくさんの拍手を頂いて、自信が1つ増えた瞬間でした。また、作業の体験も行いました。すまいる新聞の発送作業は15以上の工程を殆ど1人で進められます。速さは勿論、正確さ、丁寧さも年々アップし、毎月の発送の仕事を買ってきました。和弥さんのような仕事をやりたいという小、中学生が、静かに見学をすることもあります。ジュース詰め作業は、地域に出かけての作業です。自動販売機の扉を開けるといくつもの入口があるので、種類を間違わずに入れること、缶を水平に入れることなど、1度にいくつものことに注意をしなければならぬ仕事です。暑い日も寒い日も元気に作業に向かって行く後ろ姿を、しっかり後輩に見せてくれました。



実習中(新聞作業の様子)

卒業してからは、それぞれ別の道を歩まれる知世さん、和弥さん。持ち前のパワーと元気で前進して行ってください。いつでも応援しています。ご卒業おめでとうございます。

夏休み、みんなの
ふやふや、嬉しい物
ミソソ 得意の月夜
と披露してくれまし
た。中学生になって
も元気です。さう！



小6 清野大介さん
身長が160cm
以上には伸びま
した。心も
身体も大きく
なりました。

月ごとの読書感想文
を作成しました。
「すごい！」大げな
声で、いつも
ふんばりて応援
します。



小6 小坂大音さん



中3 黒井聖詩さん

みんなと協力する
スポーツ職人の
誕生を楽しみに
しています。



中3 藤江和さん
情報 イラスト
と10月 読者の
歴史新聞は 見たい
があります

小6 加藤大進さん

お母さん頑張れ！職員へばるな！—交流会—



2月18日(土)、親の会と合わせて、交流会を行いました。交流会は、子どもたちと保護者の方々、職員が参加しました。

交流会では、ロードレースというゲームをしたり、すまいるの子ども達の活動写真をスライドで上映したりしました。ロードレースは、一人がブロック状の道を作り、もう一人がその上を進んでいくゲームです。子ども達とお母さんや兄弟姉妹の皆さん、職員が一緒になって競うのは、いつもと違って何だかワクワク♪ていねいに道を作る義煎啓太さん。お姉さん・お母さんと息がぴったりりの鈴木琴絵さん。運動不足で息が上がる職員…(笑)ゲームを楽しんだ後は、上映会です。「皆さん、暗幕をお願いします！」の言葉を合図に、全員が一斉に走り出し、あっという間に体育館が暗くなりました。スライドでは、子どもたちの笑顔や頑張っている場面(姿)をたくさん見てもらうことが出来ました。

すまいるでは、町内の障害を持った子どもたち(小学生～高校生)が、放課後や長期休みに、余暇活動を行っています。すまいるで過ごす時間は、子どもたちの生活のほんの一部。ですが、お友達と共に、また地域で過ごすことが出来る場です。今が充実していればOKということではなく、人生の大半を占める卒業後(成人してから)の生活を豊かにしていくための一つの場でありたいと考えています。そのためには、ご家族をはじめ、子どもたちを取り巻く方々との連携が欠かせません。保護者の方々と交えての交流会は、一緒に活動し楽しい時間を共有できればと考え、開催させていただきました。楽しさや一体感は、

「子どもたちの成長」のために、同じ方向を向いて歩いていくための、よりいっそうの原動力になると思います。今後も、新たな方法で保護者の方と交えた取り組みを行っていきたく思いますので、よろしくお願いいたします。



誕生者クイズ大会、開催！！

2月15日(水)、鈴木弘之さん(13日生まれ、14歳)、古澤勇人さん(28日生まれ、11歳)、義煎啓太さん(27日生まれ、10歳)が主役の誕生会を行いました。

今回はお楽しみとして、3人の誕生者にちなんだ、クイズ大会を開催しました。弘之さんは、最近気に入っている大好きな「芦田愛菜さん」の写真が出てきた時には、嬉しさを隠すのが大変な様でした。また、お家に関するクイズは、お友達もお客さんとして行っている「床屋さん」なので、簡単過ぎた問題だったようです。そんな弘之さんに、誕生会の感想を尋ねると、「楽しい」と、自身の気持ちを表わす言葉ファイルで教えてくれて、こちらも大変嬉しくなりました。



インタビューで、大人になったら「トヨタ 86 チェーン」に乗りたいと話していた勇人さん。クイズでは、2択の答えを、「どっちかな!？」と雰囲気盛り上げながら、出題してくれました。勇人さんは、大好きな映画「ワイルドスピード」を、世界各国の大都市が舞台でのカーレースという事や、出演している俳優の名前まで詳しく教えてくれました。また、全員での記念撮影でも、写真を撮る度にポーズを変えて表情豊かにしていて、誕生会を満喫してくれていた様でした。



小学4年生の啓太さんも、誕生会を心待ちにしてくれている様で、「27日が誕生日なんだよ」と教えてくれました。そしてインタビューでは、将来は「救命士」になりたいですと、堂々と答えていました。クイズでは、お医者さんの問題もあつたのですが、好きなものは、お医者さんではなくて、ゾウさんと答えていました。お友達は、裏を掛かれてしまい、白熱したクイズ大会になりました。



「立志のことば」

すまいるのお友達が、学校の立志式において、自分の決意をトーキングエイドに入力して、立派に発表致しました。素晴らしい内容なので、多くの方々に読んで頂ければ幸いです。

栃木県立のぞわ特別支援学校 中学部2年 鈴木 弘之(すずき ひろゆき)

- ・ちゅうがくぶをそつぎょうしたら、こうとうぶにいきたいです。
- ・おながくとさぎょうをがんばりたいです。
- ・そつぎょうしたら、いぶきにいて、ぱんをつくりたいです。
- ・やすみのひは、ふくだやでおいしいものをたべて、かいものをしたいです。
- ・いまからがんばることは、といれにいきたいときに、じぶんからしらせることと、べんきょうやさぎょう、はみがきなどのときに、ひとりで、しずかにがんばる事です。
- ・おかあさん、いつもごはんをつくってくれてありがとう。おかあさんのつくる、おにくをにたりようりがすきです。
- ・おとうさん、いつもおふろにいれてくれて、ありがとう。これからも、よろしくおねがいします。



2月の主な活動

- 2日 さくら市子育て支援事業
3, 10, 17, 24日 フリースペース
(チャレンジ・ステップアップ)
3日 ケアマネジメント研修
精神保健福祉関係従事者研修
4日 就学児デイサービス体験会
7日 フリースペース会議
7, 14, 21, 28日 フリースペースゆめ
8日 塩谷地区障害者相談支援専門員連絡会
9日 フリースペース那須
15日 自殺対策関係者研修
16日 さくら市障害程度区分認定審査会
18日 親の会・保護者交流会
21日 地域ケア会議、さくら市子育て支援事業
高根沢町介護・障害程度区分認定審査会
23日 りんごグループ教室

3月の主な活動予定

- 1日 さくら市子育て支援事業
2, 9, 16, 23, 30日 フリースペース
(チャレンジ・ステップアップ)
3日 なかよしコンサート
6日 フリースペース会議
6, 13, 27日 フリースペースゆめ
8日 フリースペース那須
りんごグループ教室
13日 高根沢町介護・障害程度区分
認定審査会
14日 塩谷地区障害者相談支援専門員
連絡会
21日 さくら市障害程度区分認定審査会
さくら市子育て支援事業
地域ケア会議

平成24年2月「障害児者生活支援センター すまいる」利用状況

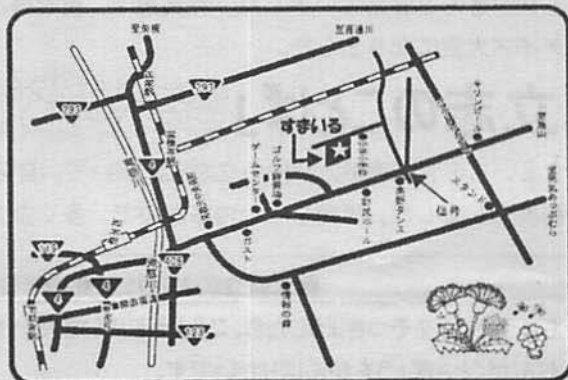
○就学児デイサービス事業121人

〈内訳〉阿久津小11人、のぞわ24人

南那須83人、宇大付属3人



＜編集後記＞昨年3月11日から、あっという間に1年が過ぎたように思います。改めて、犠牲に遭われた方々のご冥福をお祈り致します。震災が起きてから、私達の生活で不便になったことは色々あると思います。けれど、周りの人達との連帯感が生まれたプラス面もあったと思います。色々な“繋がり”を、今後も大切にしていけたらと思います(人)。



第95号(3月号) 平成24年3月7日 発行

【編集】 高根沢町障害児者生活支援センター すまいる

〒329-1225 栃木県塩谷郡高根沢町石末2247-2

TEL 028-675-2163 FAX 028-675-2274

E-mail: t-kinoko@bird.ocn.ne.jp (お問い合わせはこちらへ…)

【発行】 特定非営利活動法人 とちぎ障害者労働自立センター ゆめ

〒329-1231 栃木県塩谷郡高根沢町宝石台1-1-14

TEL/FAX 028-675-7771

